

# 2026年3月期 第2四半期 決算補足説明資料

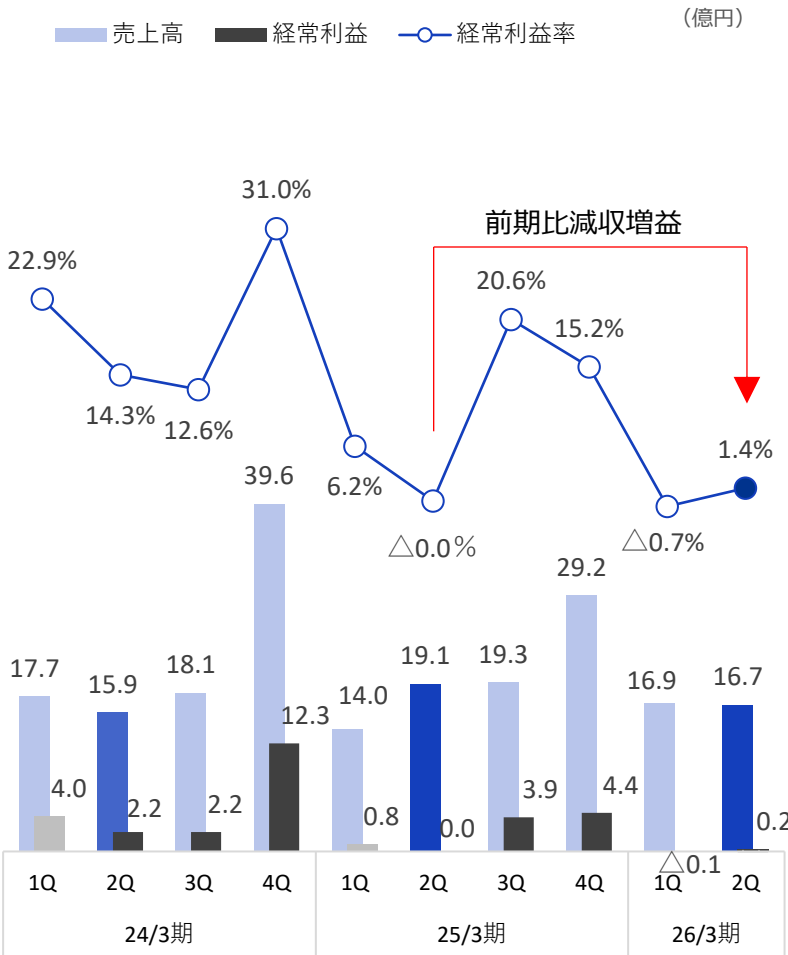
2025年11月14日





- 26/3期2Qは前期比減収増益。経常利益率のトレンドも、低水準継続ではあるものの、底入れ
- 売上高は機能材料、医薬で想定よりも積上げるも、バイオで期ずれが発生。損益面では若干の想定未達ながら、想定範囲内と認識
- 通期見通しに変更なし。例年通り下期は医薬、バイオを中心に販売集中を想定。生産能力拡大に向けた新棟も本格稼働開始

四半期推移



半期別業績見通し

(百万円)	2026/3月期				
	上期			下期	通期
	見通し	実績	差額	見通し	見通し
売上	3,394	3,374	△19	5,225	8,600
機能材料	1,315	1,410	+95	1,539	2,950
医薬	1,370	1,416	+46	2,283	3,700
バイオ	708	547	△161	1,402	1,950
営業利益	31	△0	△31	780	780
経常利益	44	11	△32	788	800
経常利益率	1.3%	0.3%	△1.0 p	15.1%	9.3%
当期純利益	29	1	△27	582	584

## ● 機能材料

来期販売の大型案件着手で生産リソースが限定され、更に一部製品で原材料供給が遅延し、製造に停滞発生。短期的な売上抑制要因に

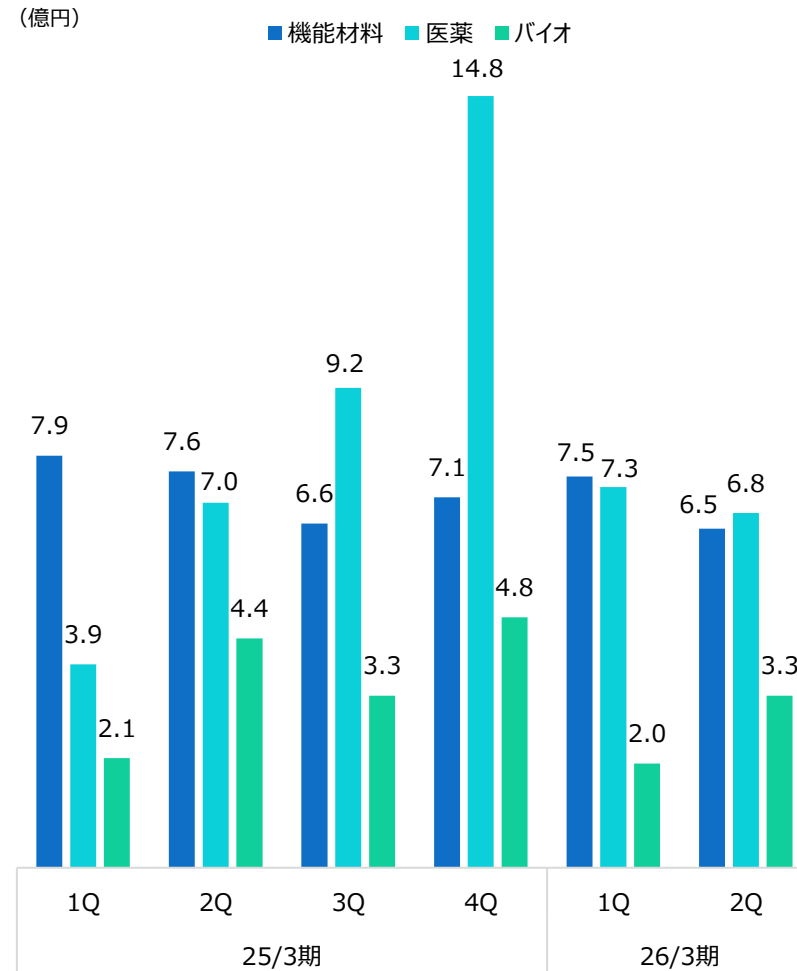
## ● 医薬

設備不調による操業ロス発生。販売計画が若干後ろ倒しも、当期見通しは十分達成の見込み

## ● バイオ

一部製品で期ずれが発生。4Qの新設備稼働開始に向け、受注積み増しを開始

## 分野別四半期売上高推移



## 機能材料分野

- 【受注状況】 引き合い好調
- 【2Q実績】 来期販売の大型案件着手に加え、一部製品の原材料供給に遅延が発生、製造の停滞発生
- 【下期見通し】 上期からの大型案件を引続き実施も、引き合い好調を背景に対上期で増収想定

## 医薬分野

- 【受注状況】 見込生産品や来期以降に販売予定の大型案件が堅調
- 【2Q実績】 設備不調による操業ロス発生で期首想定よりも販売計画が後ろ倒し
- 【下期見通し】 通期見通しに変更なし。出荷集中の年度末に向け、着実に対応

## バイオ分野

- 【受注状況】 新規の引き合い好調
- 【2Q実績】 新規開発案件の製造期間が当初計画より延び、期ずれ発生も通期で考えれば想定範囲内と認識
- 【下期見通し】 4Q以降にD棟本格稼働で売上加速

# 1. 2026年3月期上期 決算概要

---

## 2026/3月期 2Q 経営成績

- 26/3期2Q累計決算は前期比減益ながら、ほぼ想定範囲内。バイオで一部期ずれがあったものの、それは下期に売上計上の見通し
- 下期偏重構造にあるため、上期時点の通期利益見通し進捗率はわずか。ただし、これも当初想定通り
- 調整後 EBITDA マージンは 11.3%。高採算案件の減少、固定費増などからかなり低い水準となるも、四半期推移では反転改善へ

(百万円)	2024/3期	2025/3期		2026/3期			前期比較		2026/3期 進捗率
		2Q累計	通期	2Q累計		通期見通し	差異	変化率	
				見通し	実績				
売上高	9,154	3,322	8,178	3,394	3,374	8,600	51	1.6%	39.2%
機能材料	2,714	1,568	3,002	1,315	1,410	2,950	△158	△10.1%	47.8%
医薬	4,609	1,099	3,508	1,370	1,416	3,700	317	28.9%	38.3%
バイオ	1,829	654	1,667	708	547	1,950	△107	△16.4%	28.1%
営業利益	2,081	76	771	31	△0	780	△77	△101.7%	△0.0%
経常利益	2,094	86	929	44	11	800	△74	△86.9%	1.4%
経常利益率	22.9%	2.6%	11.4%	1.3%	0.3%	9.3%	△2.3%		
当期純利益	1,493	54	737	29	1	584	△53	△98.1%	0.2%
調整後EBITDA*	2,867	483	1,761	-	380	1,777	△103	△21.4%	21.4%
調整後BITDAマージン	31.3%	14.5%	21.5%	-	11.3%	20.7%	△3.3%		

\* 調整後EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 研究助成金 - 長期前受収益取崩し

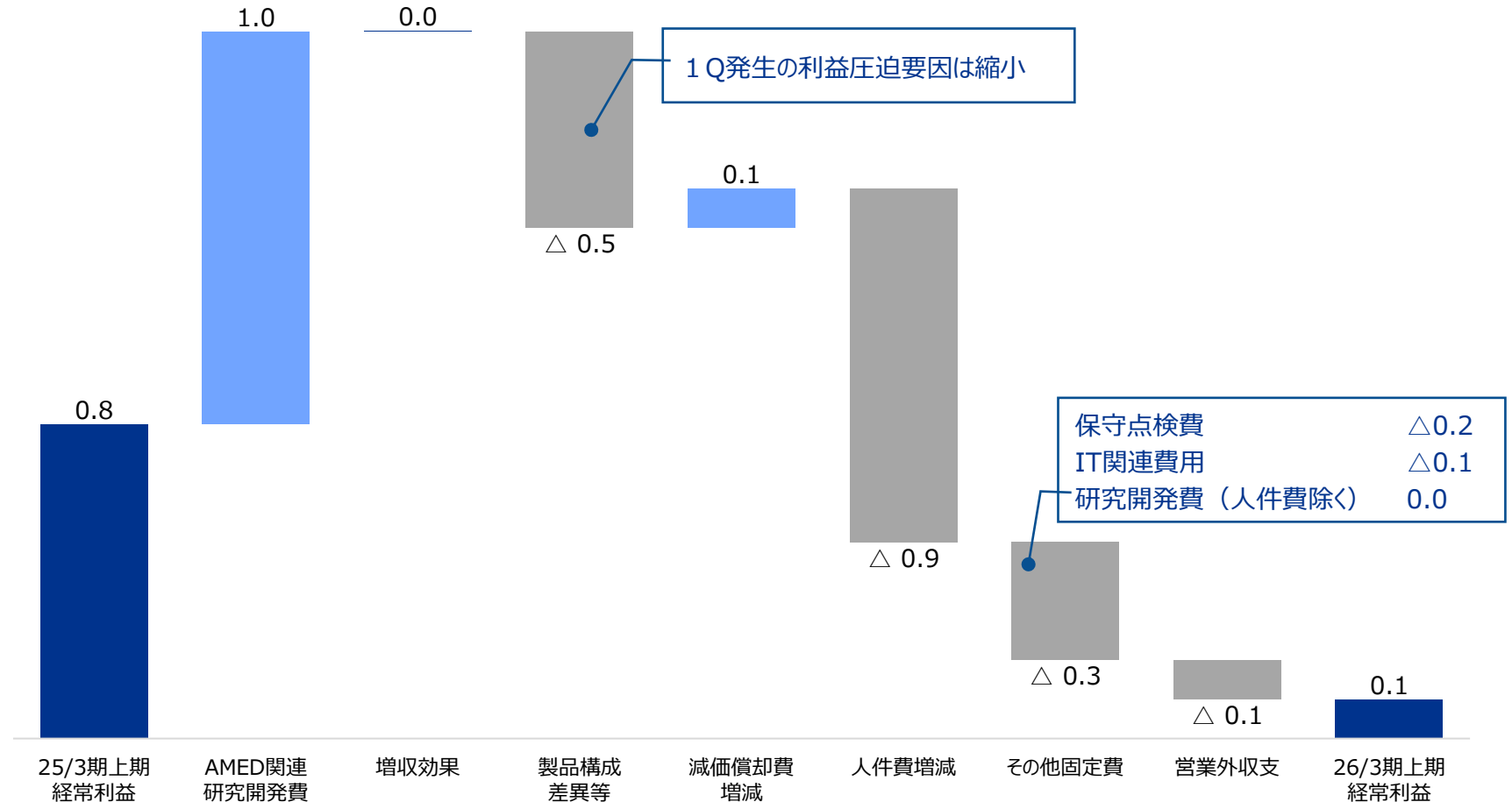
(百万円)	2024/3期				2025/3期				2026/3期	
	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q
売上高	1,779	1,593	1,812	3,969	1,405	1,916	1,932	2,924	1,694	<b>1,679</b>
機能材料	610	576	723	804	798	769	665	768	755	<b>654</b>
医薬	923	673	535	2,476	395	703	927	1,482	730	<b>686</b>
バイオ	244	343	553	688	211	442	339	673	208	<b>338</b>
営業利益	404	223	222	1,230	85	△8	246	448	△9	<b>8</b>
経常利益	408	227	228	1,230	87	△0	398	445	△11	<b>22</b>
経常利益率	22.9%	14.3%	12.6%	31.0%	6.2%	△0.0%	20.6%	15.2%	△0.7%	<b>1.4%</b>
当期純利益	286	154	154	897	56	△1	283	398	△11	<b>12</b>
調整後EBITDA	590	419	410	1,447	283	200	611	665	182	<b>197</b>
調整後EBITDAマージン	33.2%	26.4%	22.6%	36.5%	20.1%	10.5%	31.7%	22.8%	10.8%	<b>11.8%</b>

- 経常減益の主因は、高採算案件の過渡期による構成悪化と人件費を中心とした固定費の上昇。固定費は人材確保、研究開発力確保のため上昇も止む無しとの判断。
- 一方、前期に計上したAMED※関連の大型研究開発費は消失（下期には逆に営業外利益計上の補助金収入が消失）。損益下支え要因となるも、それらマイナス要因の吸収には至らず

※AMED：国立研究開発法人日本医療研究開発機構の略称

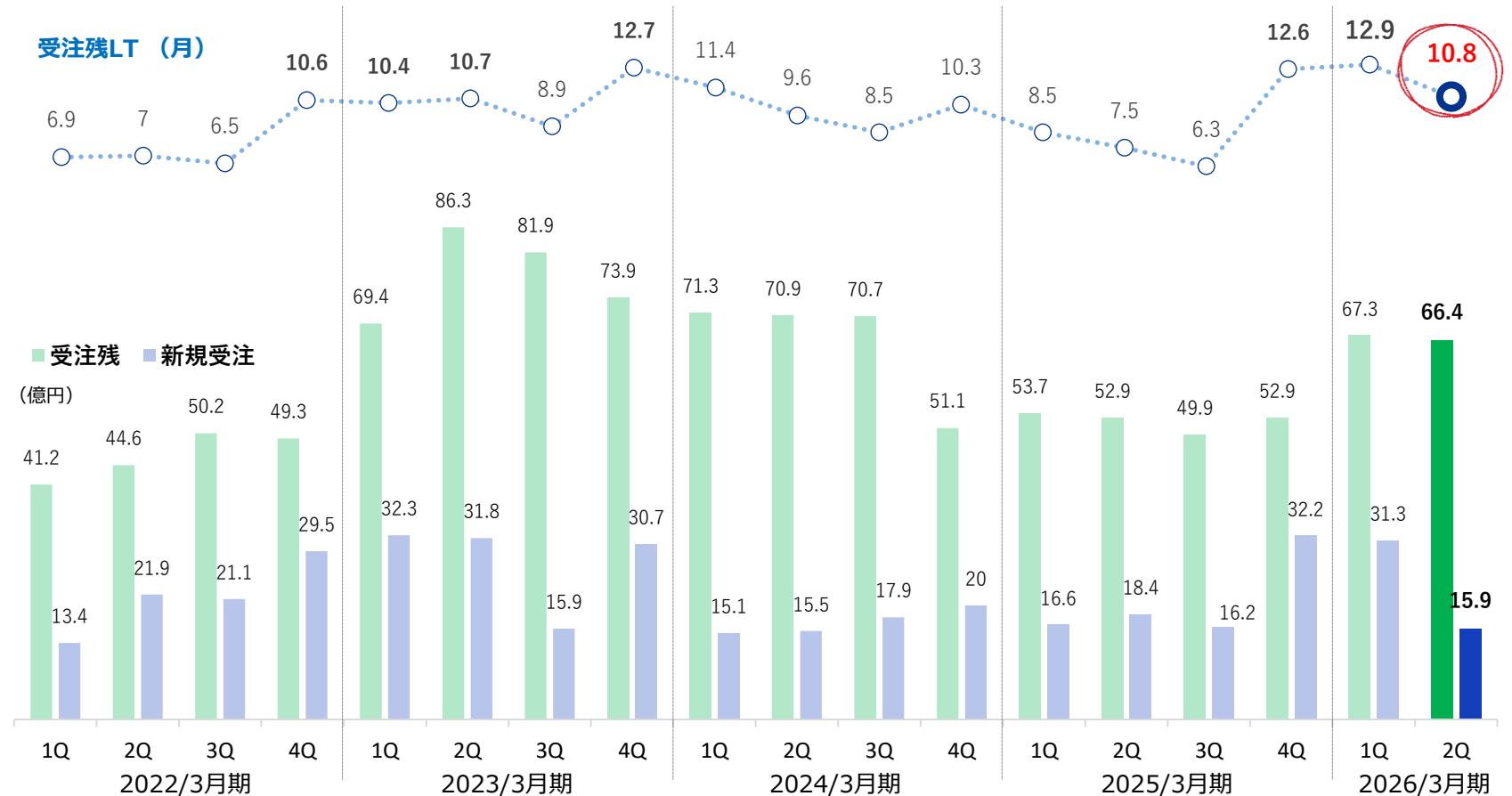
## 2026/3期 2 Q経常利益 増減益要因分析

(億円)



- 26/3期2Qの新規受注は1Q比で減少。これにより、受注残存リードタイムも時間の経過に伴って若干短縮
- 新規受注減少の主因は、大型案件獲得の端境期となったため。
- ただし、受注引合いは依然として強い。今後はD棟・FP-4棟稼働で生産余力の増加を計画。D棟は生産品目が既に確定済み、FP-4棟も新規受注獲得を推進。当期の新規受注は2Qがボトムになる見通し

## 新規受注、受注残及び受注残存リードタイムの推移

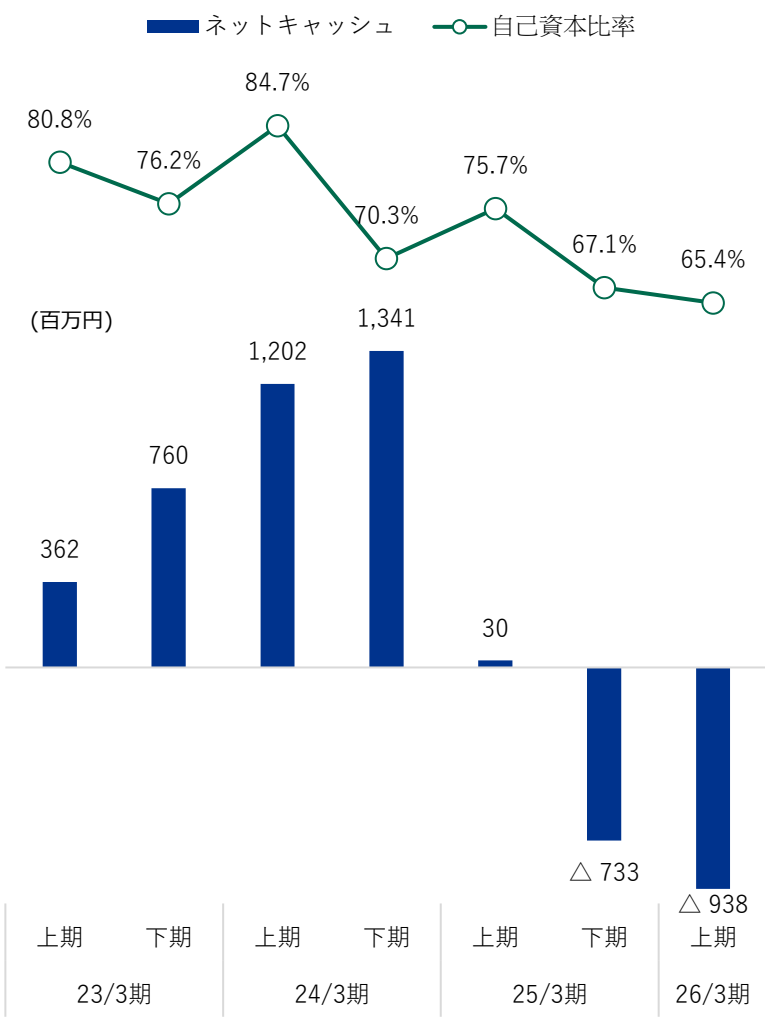


※1 顧客から提示されたフォーキャスト等は含まず  
 ※2 受注残LTはその時点で今後の納期に至る平均残存期間で算出



- 総資産は前期末比で若干の増加。大規模設備投資に伴い、有形固定資産が増加
- 設備投資は順調に進捗。新規施設も建設仮勘定から機械などへの振り替え進展
- 流動資産では、売上債権の回収が進む一方、下期の出荷集中対応として在庫を積増し
- 自己資本比率は65.4%。高水準ながら、財務レバレッジを着実に推進

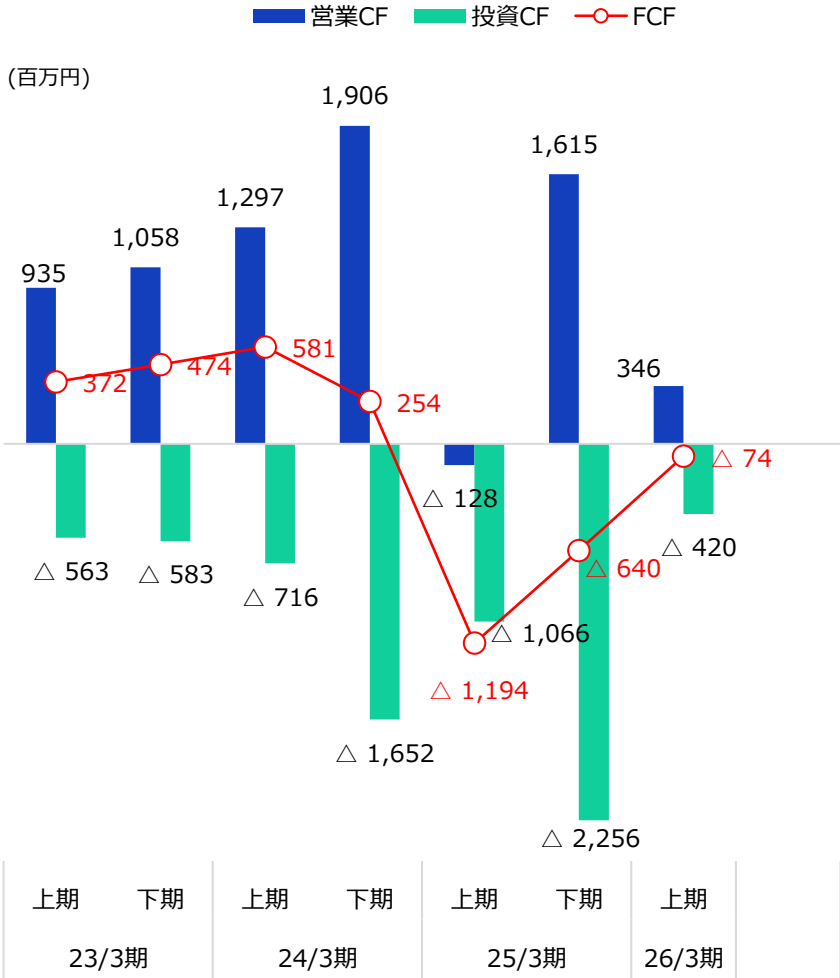
(百万円)	2024/3期	2025/3期	2026/3期 2Q	前期末比
流動資産	8,558	7,475	7,190	△284
現預金	3,311	2,385	2,241	△144
売上債権	2,626	2,407	1,076	△1,330
棚卸資産	2,518	2,541	3,343	+801
固定資産	10,063	12,676	13,306	+629
有形固定資産	8,474	11,147	11,759	+612
(うち、建設仮勘定)	1,345	3,646	1,840	△1,805
繰延税金資産	1,151	1,191	1,183	△7
総資産	18,621	20,152	20,497	+345
負債	5,534	6,632	7,083	+451
有利子負債	1,970	3,119	3,180	+61
未払金/未払税	1,699	753	1,162	+409
長期前受収益	923	1,767	1,689	△77
純資産	13,086	13,520	13,414	△106
負債純資産合計	18,621	20,152	20,497	+345



- FCFは3半期連続のマイナス計上。  
生産能力拡張を狙った大型設備  
投資向けのキャッシュアウトが影響
- ただし、当上期は大型設備投資  
がなかったことで、FCF赤字幅は  
大幅に縮小
- 下期には設備支払いが再び集中  
するため、通期では引き続きマイ  
ナスの見込み

(百万円) △ = CF減少	2025/3期		2026/3期	
	上期	下期	上期	前期比
営業CF	△128	1,615	346	+475
税前当期純利益	87	840	9	△78
減価償却費	447	432	443	△3
売上債権/ 仕入債務増減	1,307	△1,042	1,378	+71
棚卸資産増減	△452	428	△801	△349
投資CF	△1,066	△2,256	△420	+645
固定資産取得	△1,044	△2,258	△417	+627
FCF	△1,194	△640	△74	+1,120
財務CF	△114	1,023	△70	+44
借入金増減等	1	1,147	61	+59
配当金の支払額	△115	△123	△131	△15

\* FCF=営業CF+投資CF で算出



## 2. 2026年3月期 決算見通し

---

- 通期見通しは従来想定を据置き。前期比では5.2%増収、13.9%経常減益の見通し
- 半期別には、当期も下期偏重型を想定。特にバイオ分野の下期売上は対上期で2.5倍と、例年以上に下期のウエイトが高まる見通し。当上期販売の期ずれに加えて、新規設備の稼働開始などが寄与
- 下期のみの業績は、対前期で増収、経常減益を想定。増収減益となるのは、新設備の初期稼働コスト発生、減価償却費増、AMED関連収入消失などが影響。なお、受注は3Q以降増加を見込むも、業績寄与は来期以降となる公算大

(百万円)	2024/3期	2025/3期			2026/3期				
	下期	上期	下期	通期	上期	下期見通し	差異		通期
							対上期	対前期	
売上高	5,782	3,322	4,856	8,178	3,374	5,225	+1,851	+369	8,600
機能材料	1,527	1,568	1,434	3,002	1,410	1,539	+129	+105	2,950
医薬	3,012	1,099	2,409	3,508	1,416	2,283	+867	△126	3,700
バイオ	1,242	654	1,012	1,667	547	1,402	+855	+390	1,950
営業利益	1,453	76	695	771	△0	780	+780	+85	780
経常利益	1,458	86	843	929	11	788	+777	△54	800
経常利益率	25.2%	2.6%	17.4%	11.4%	0.3%	15.1%	+14.8pp	△2.3%	9.3%
当期純利益	1,052	54	682	737	1	582	+581	△99	584
調整後EBITDA*	1,857	483	1,277	1,761	380	1,397	+1,017	+120	1,777
調整後EBITDAマージン*	32.1%	14.6%	26.3%	21.5%	11.3%	26.7%	+15.5pp	+0.4PP	20.7%



## ● 機能材料

売上は安定的に推移。26/3期  
上期は売上抑制要因が発生も  
当初の想定を上回る積上げ。引  
合い好調を背景に売上15億円/  
半期の水準を回復へ

## ● 医薬

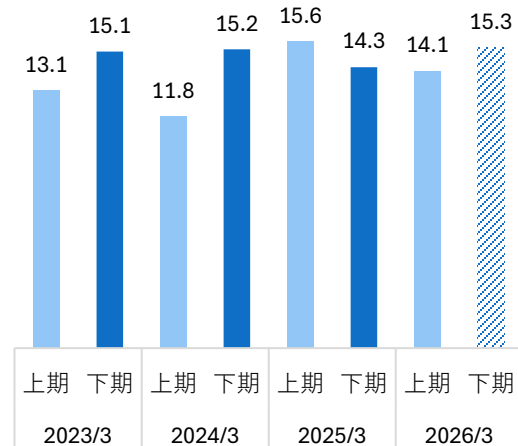
大型案件の反動影響はほぼ一  
巡。下期偏重型ながら、従来に  
比べ、上下期差異は縮小方向

## ● バイオ

上期の一部期ずれは下期に解消。  
その分、下期偏重はより顕著とな  
る見通し。26/3期下期売上高は、  
半期ベースで過去最高を更新

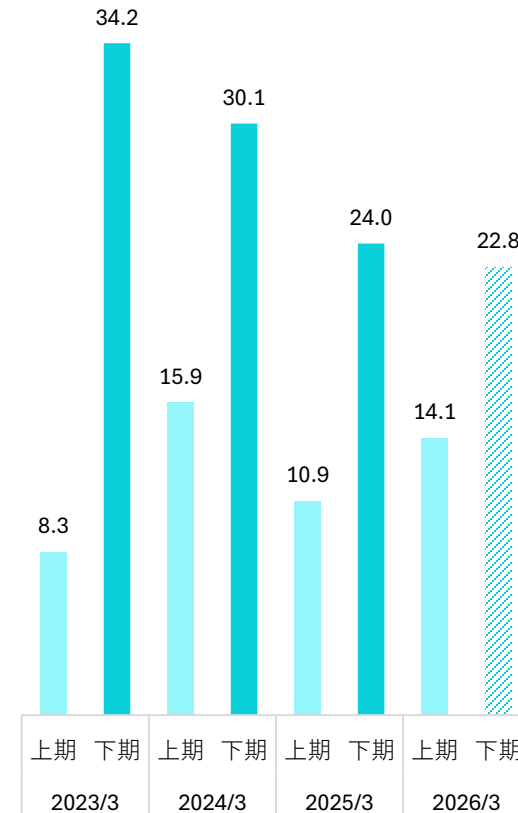
### 機能材料分野

(億円)



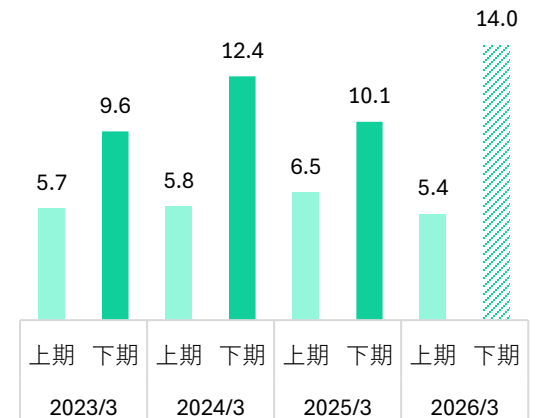
### 医薬分野

(億円)



### バイオ分野

(億円)



## 半期別 収益影響要因の整理

- 上期は社内、社外でのマイナス要因が収益の積上げを減速させるが、通期で考えれば想定範囲内
- 機能材料の供給問題は継続的に発生する可能性はあるが、強い引き合いを背景に見通しに対して収益を十分に確保できる見込み
- 一方、医薬分野では生産ピッチを改善させ、着実な生産を実施予定。バイオ分野ではD棟が4Qに稼働予定。ただし、償却費の増加は前受収益取崩しにより相殺され、損益への影響は中立

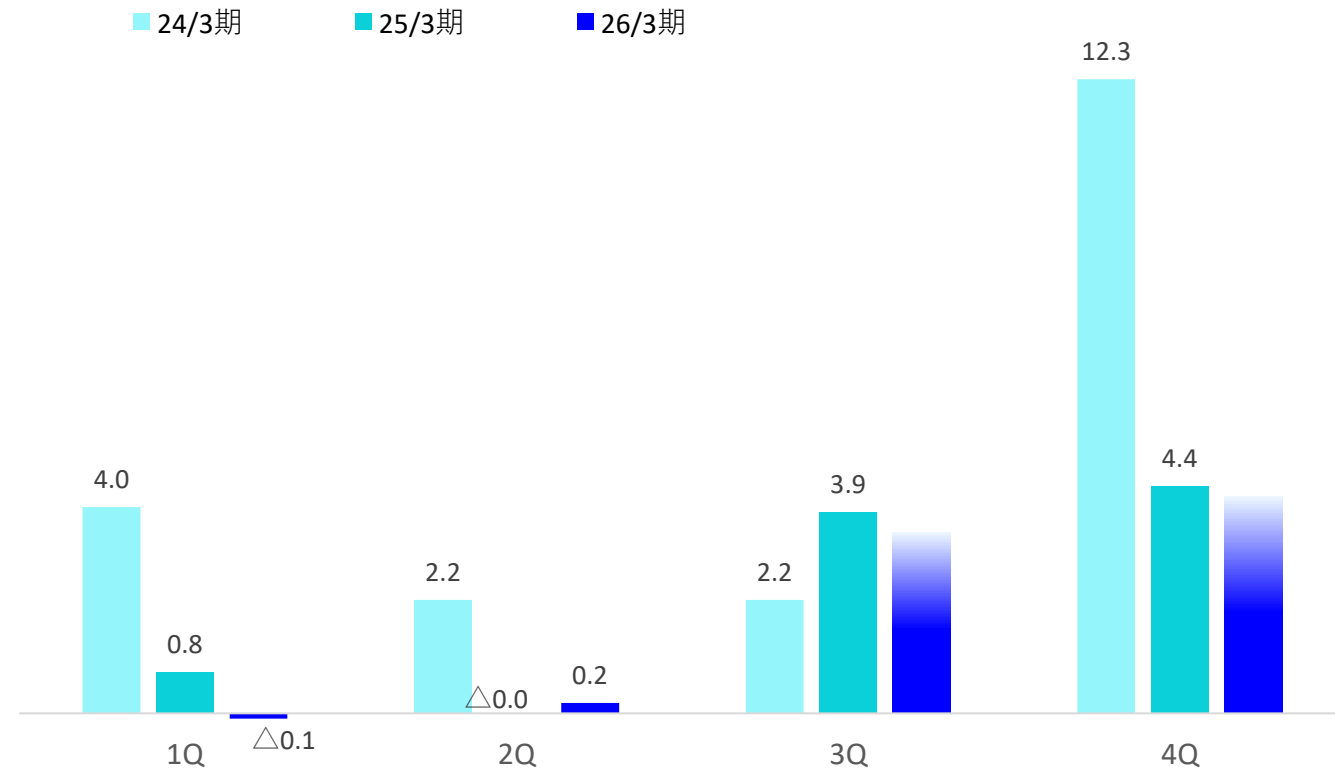
	上期		下期
機能材料	□ 来期販売の大型案件着手	▶	□ 引続き生産リソース圧迫も期首想定通り
	□ 一部製品の原材料供給に遅延が発生、製造の停滞発生	▶	□ 供給問題解決に対して、顧客が主体となり、問題解決に取り組みながら、強い引き合いを背景に収益を確保
			□ 新棟（FP-4）稼働で、償却費負担重くなる見込み
医薬	□ 設備不調による操業ロス	▶	□ 設備不調解消、生産ピッチ改善
バイオ	□ 一部製品の期ずれ発生	▶	□ 通期で勘案すれば影響は極めて軽微となる見込み
			□ 新棟（D棟）は垂直立上げを想定。償却費は相殺※となることから損益面へは影響は早々に寄与する公算

※ D棟の償却は前受収益取崩しにより相殺され、損益には中立

- 四半期別には、四半期を追って経常利益は拡大基調を辿ると想定
- ただし、4Qに新設備稼働が始まり、償却負担が増加。これら業績圧迫要因により、利益の積上げピッチは減速を想定。能力増効果の本格寄与は来期の見通し

## 四半期別経常利益想定

(億円)



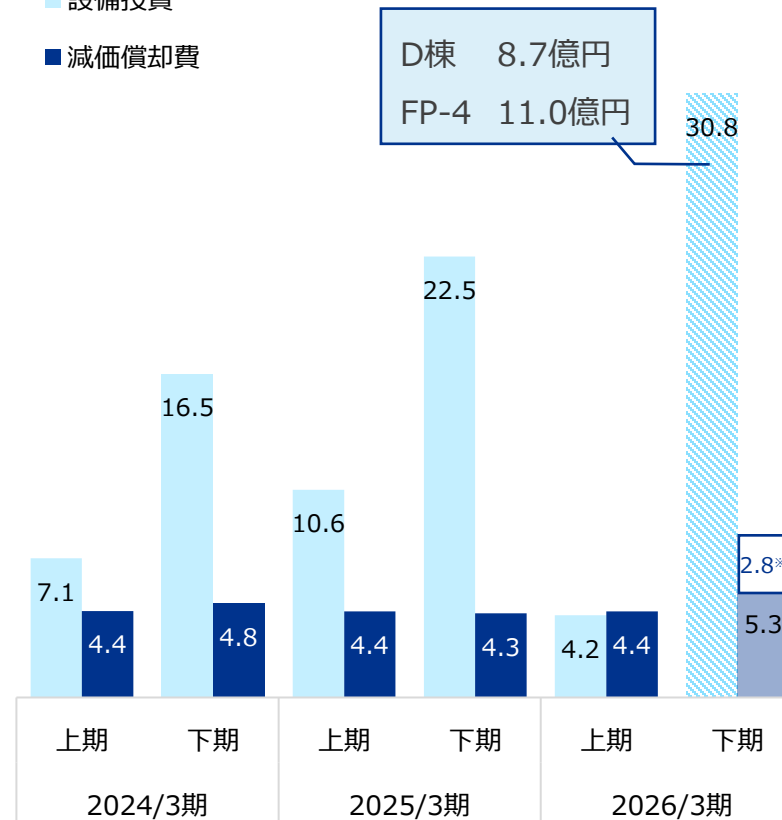
- 26/3期下期は30億円弱の大型投資が検収予定。27/3期以降、生産余力は大幅に拡大の見通し
- 26/3期下期は新棟稼働により、対上期で償却費増を想定。ただし、D棟の前受金充当で実質的な負担はなし。FP-4は4Q途中から稼働を想定で限定的な負担増の見込
- 当下期の研究開発は1.2億円を想定。上期比では若干の増加を計画。なお、上期に2.3億円を計上したAMED関連の研究開発費は、当期は計上せず

## 設備投資と減価償却費の推移(CFベース)

(億円)

■ 設備投資

■ 減価償却費

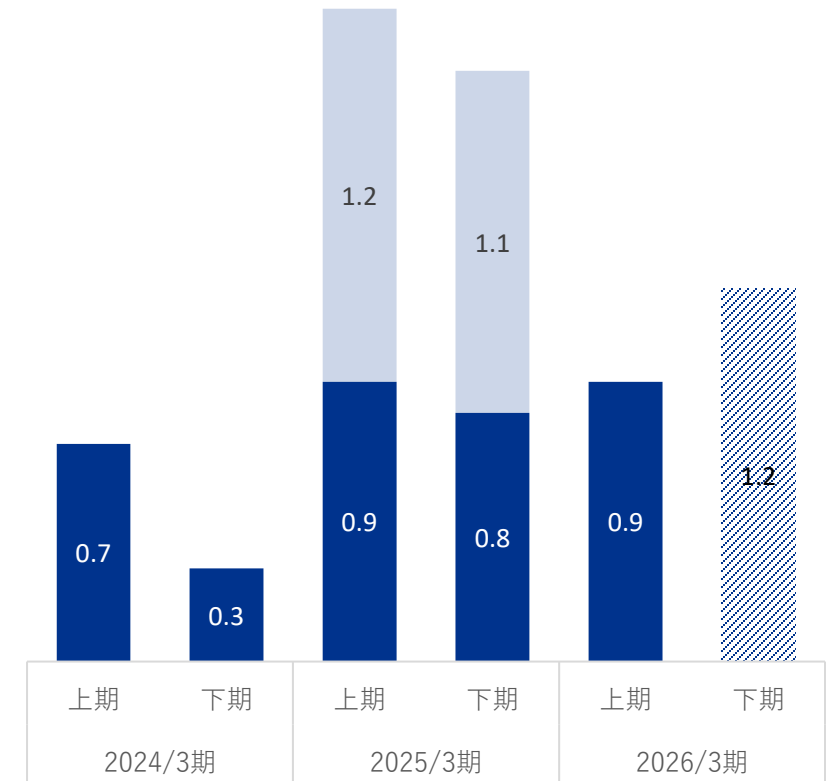


## 研究開発費の推移

(億円)

■ AMED関連の研究開発費

■ AMED関連以外の研究開発費



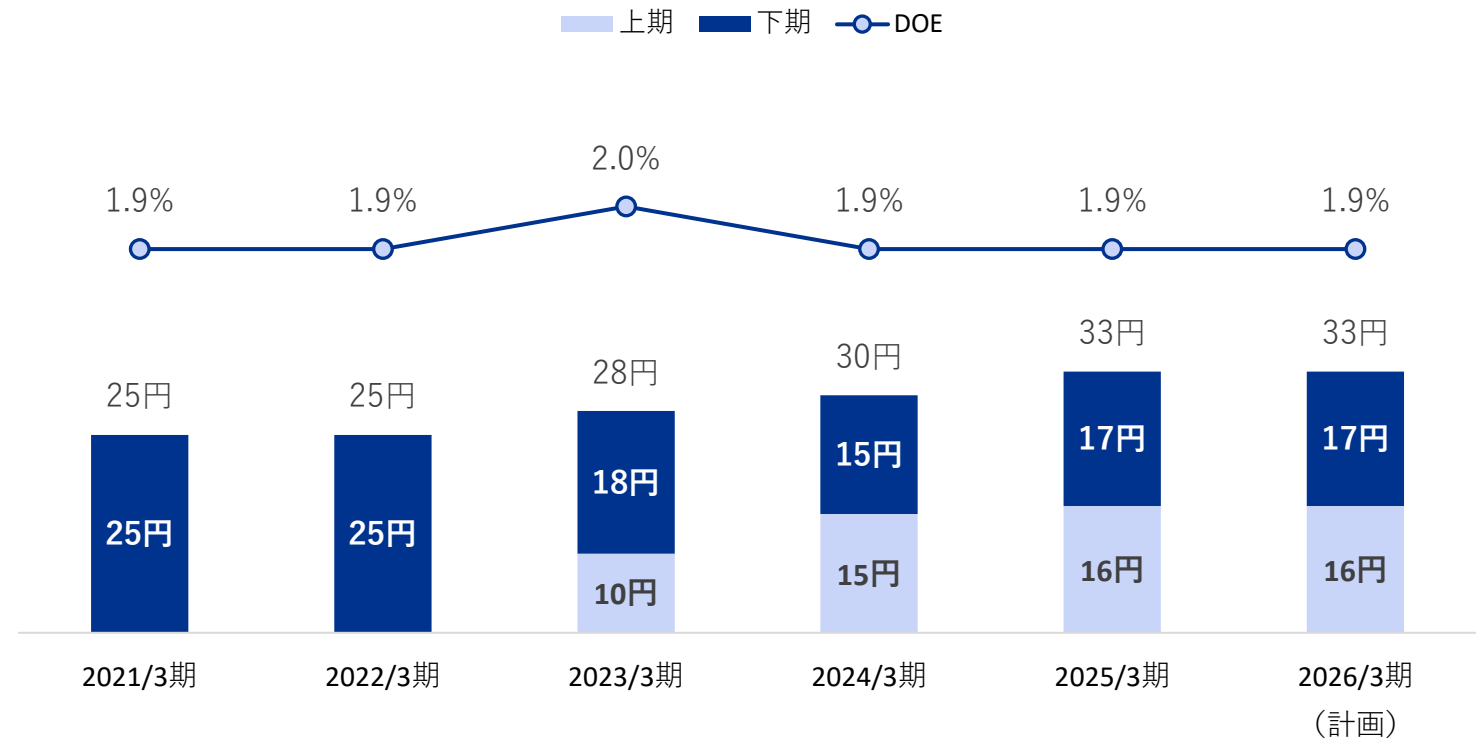


- 2026/3期中間配当は16円/株を実施。
- 年間配当は据え置きで33円を計画。想定DOEは1.9%となる見通し。期末配は17円を予定

## 配当見通し

### 配当方針

企業価値拡大に向けた投資余力を総合的に勘案し、業績状況に即した安定配当を継続実施

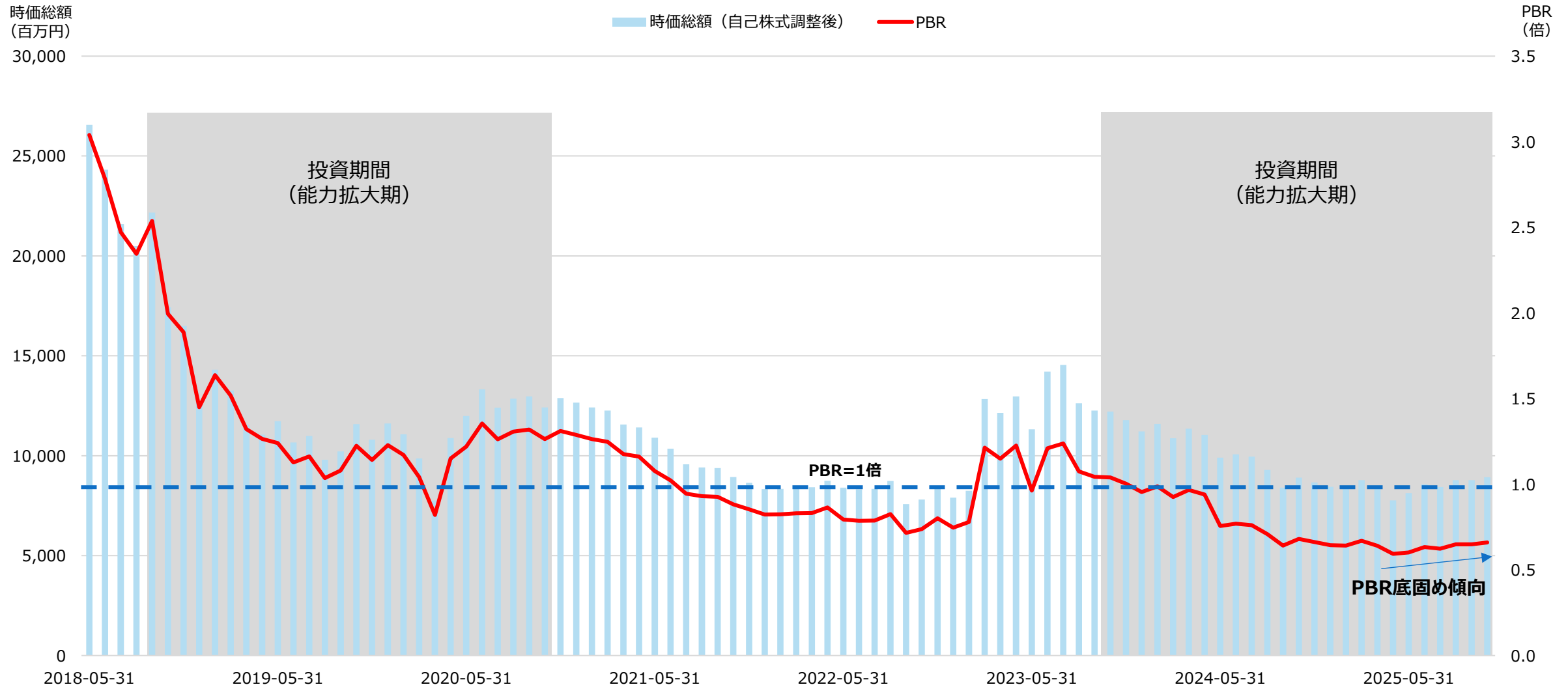


### 3. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

---

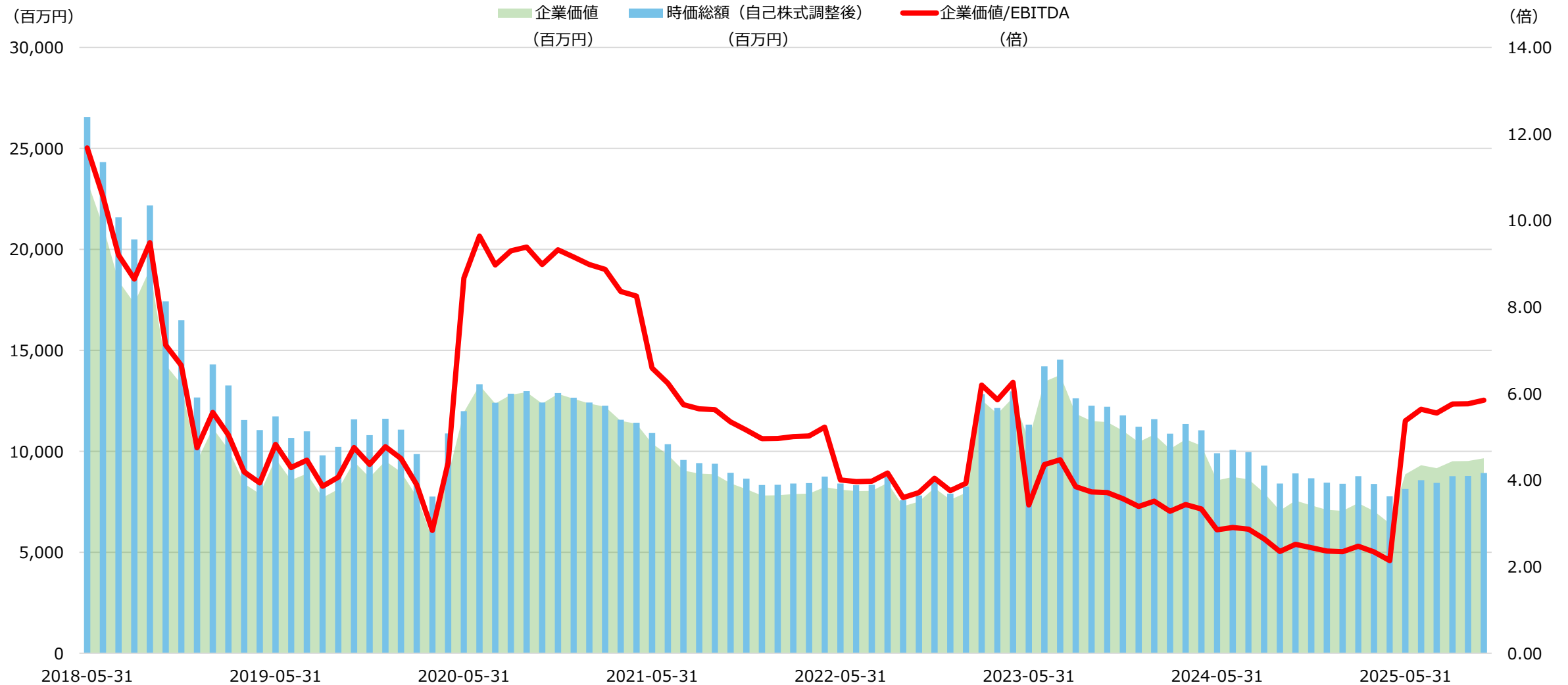
# 株式時価総額とPBR

- 時価総額は、能力拡大期は業績踊り場となるため、概して低下する傾向。直近は底固め傾向
- PBRも1倍以下で底這い状況ながら、同様に底固め中



# EBITDA倍率

- 企業価値/EBITDA倍率も低水準ながら底打ち傾向であり、時価総額、PBRとともに市場評価はようやく落ち着いた状況に





## 4. トピックス

---

## 経営課題2 生産能力/生産性の更なる引上げ

対策 生産能力拡大、オペレーションスキル向上

### 【バイオリサーチセンター新棟（D棟）竣工】

- 稼働スケジュール -



- 財務影響 -

貸借対照表  
(26/3 2Q末時点)

	長期前受収益
有形固定資産	

(26/3 3Q以降)

製造原価の中で減価償却費と同額が長期前受収益から取り崩しながら収益認識を行っていくため、**実質的な償却費負担は相殺される。**

## 経営課題4 研究開発から事業化への更なる加速

対策 アカデミア/事業会社との提携等

### 【DCIPファンドへの出資】

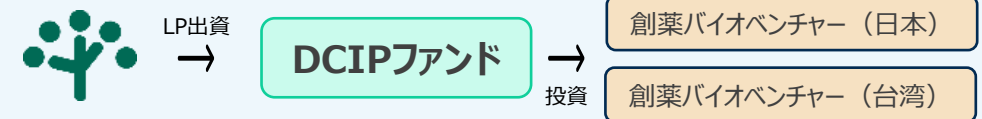
ファンド出資の目的について

本ファンドへの出資を通じて、有望なシーズを保有するアカデミア/ベンチャーとの協業および当社ソリューションサービスの拡大を目指します。

DCIPファンドについて

大和証券グループのDCIパートナーズが組成する、日本と台湾の創薬分野を中心とした未上場のバイオベンチャーへ投資を行うベンチャー投資ファンド

スキーム概要



### 【光オンデマンドケミカル株式会社との共同研究契約を締結】

本共同研究について

光オンデマンドケミカル社の保有するユニークな光反応技術を当社のソリューションビジネスへ導入することを目的に共同研究契約を締結いたしました。

光オンデマンドケミカル社について

下水、海水、空気などの原材料を用い、環境負荷の少ない光反応によって有用な化学品を創出する「光ものづくり」を推進する、神戸大学発のスタートアップ企業

### 【ベンチャー投資の推進】

バイオベンチャー等との連携強化、事業シナジー創出を目的とした投資活動を複数検討中

- 当社は出雲に進出（2001年）以来、地域密着型企业として出雲市で事業を展開
- 雇用創出や地元企業との連携、地域行事への協力を通じて出雲の発展に貢献。今後も地域とともに歩み、皆様に愛される企業を目指す
- 当社は長年にわたり「いずも産業未来博」に出展しており、2025年も引き続き「見て」、「触って」、「体感する」ことで産業の魅力を幅広く発信
- 未来の産業を担う多くの子供や学生と科学実験を通じて、「科学を楽しむ」ことを伝える場として交流を図る



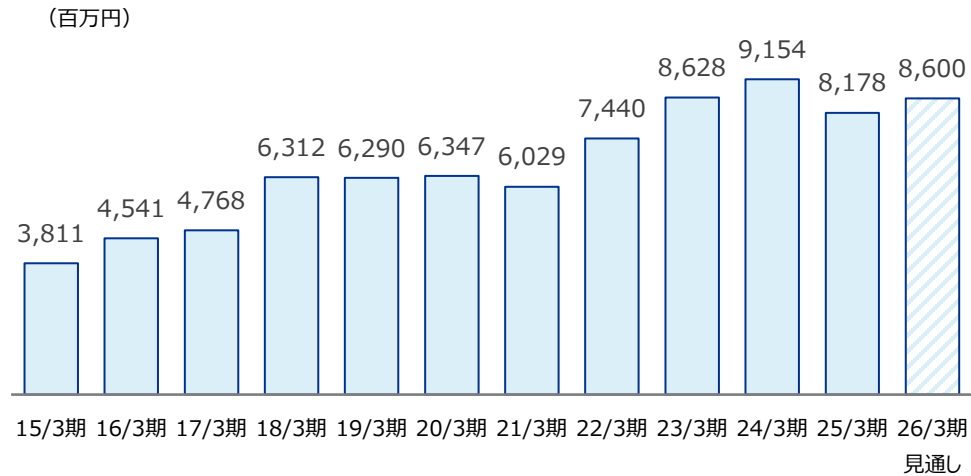
## 5. APPENDIX

---

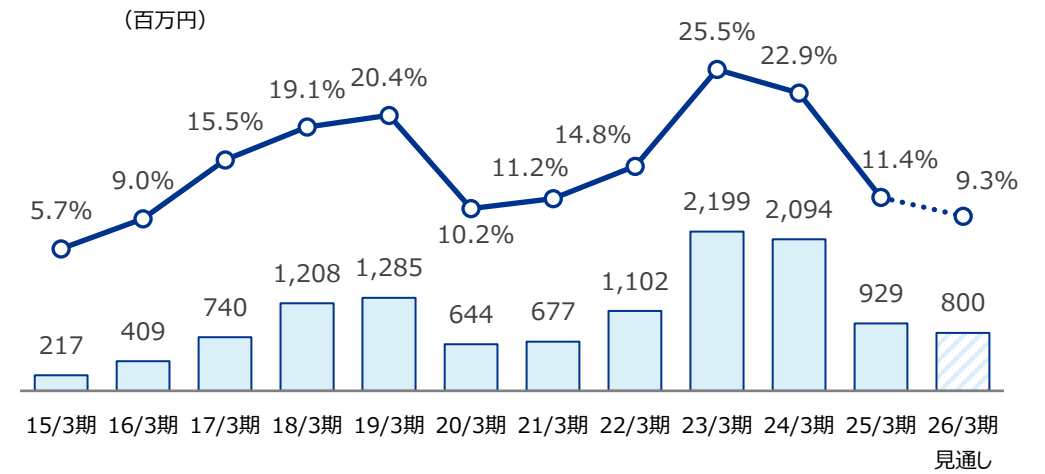




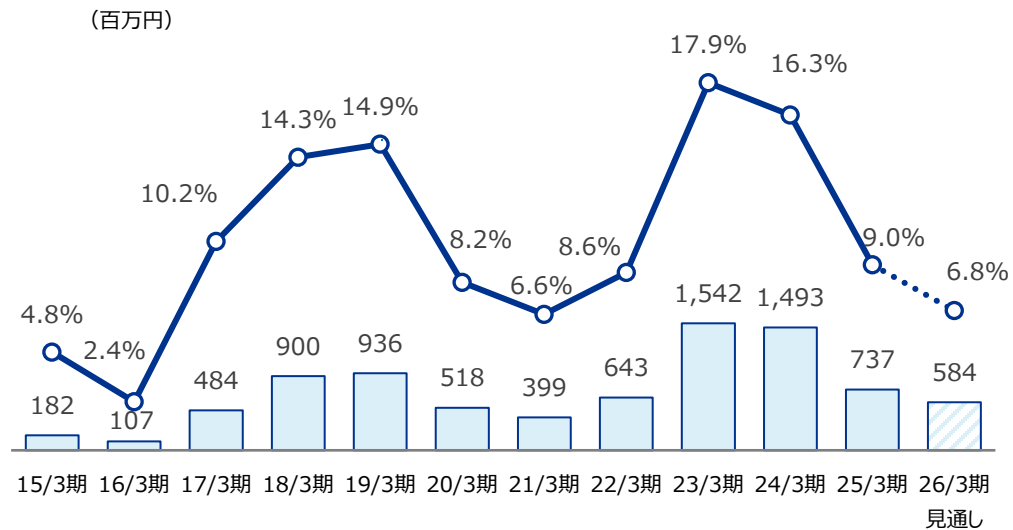
## 売上高



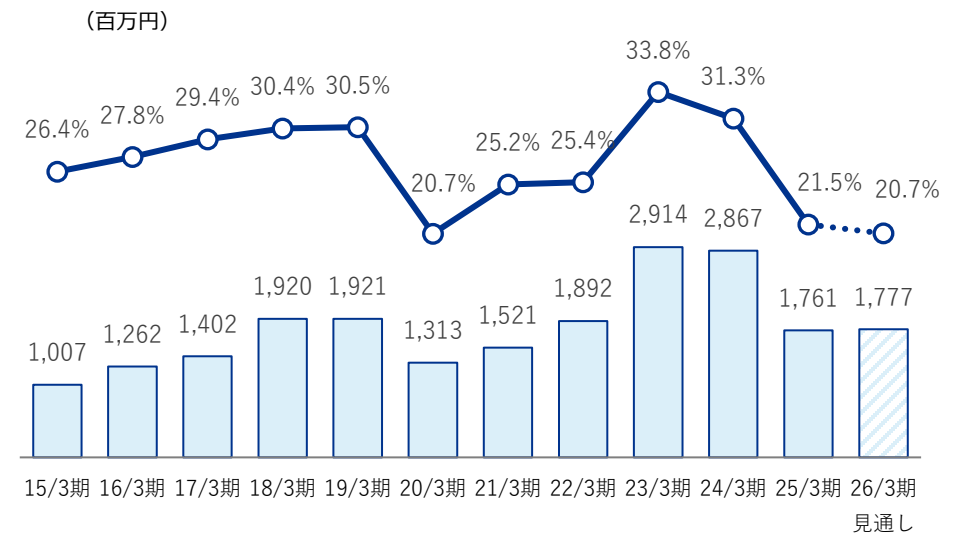
## 経常利益・経常利益率



## 当期純利益・当期純利益率



## 調整後EBITDA・調整後EBITDAマージン



\*調整後EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 研究助成金 - 長期前受収益取崩し分

### ＜ 見通しに関する注意事項 ＞

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先 経営企画部 IR担当 078-955-9900（代表） [knc-ir@kncweb.co.jp](mailto:knc-ir@kncweb.co.jp)